

## 農協共済よりみた富山県民の死因について

— 癌と保障に関する調査 —

北川内科クリニック 北川 鉄人  
富山県厚生連 大浦 栄次

農協共済加入者はほとんど農村部専業農家と考えてよいので、富山県における農村部住民の成人病の死亡原因について知るには農協共済の死亡数を調べることにより推定し得る。成人病の予後調査のひとつとしてその死亡者に注目し、農協共済と富山県とを比較し、さらに富山県における農家住民の死亡率を分析検討するのは成人病死因の実態を知るひとつの手段として興味あることと考えたい。また農村部の全死亡のうち癌の占める割合、とくに富山県で多いといわれる胃癌の割合について農村部でその実態を知るひとつの手がかりとなろうか考える。

この度、農協共済加入者(61年度分)についての死亡者をチェックする機会を得たので、富山県全体の成人病死亡人口と農協共済加入者死亡人口とを比較検討した。また全癌に対する胃癌の年齢構成とその分布についても調べ考察を加えた。また加入者に対する保障という問題に触れ、成人病死亡と生命共済という課題についても述べたい。

### 対象と方法

富山県農協共済加入者で61年度(1986年)の死亡者を書類チェックによりまとめ、富山県の人口10万を基準とした死亡率を統計的に処理し、(訂正死亡率)富山県の死亡率と対比した。死亡者は全死亡中、全癌と胃癌に分類して比較した。(表1、図1)

年代別死亡率について農協共済加入者死亡

表1 富山県と農協共済加入死亡者との比較

		男	女	計
全死亡	富山県	795.6	635.5	712.6
	富山県共済連	402.7	215.6	311.5
全ガン	富山県	229.7	146.1	186.4
	富山県共済連	144.9	79.3	119.6
胃ガン	富山県	74.3	42.0	57.6
	富山県共済連	58.3	22.4	44.5

※ 共済連の死亡率は、S61年の富山県の人口を基準とした訂正死亡率である。

図1 富山県と農協共済連における訂正死亡率の比較(昭和61年度)

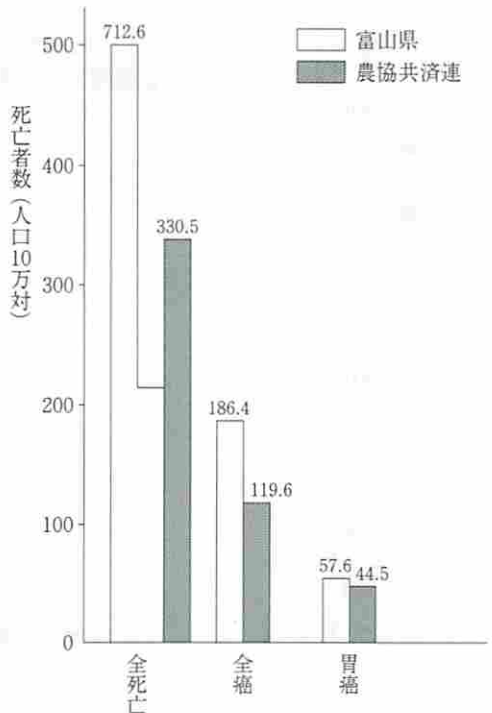


図2 全死亡における富山県と農協共済連の比較（昭和61年度）

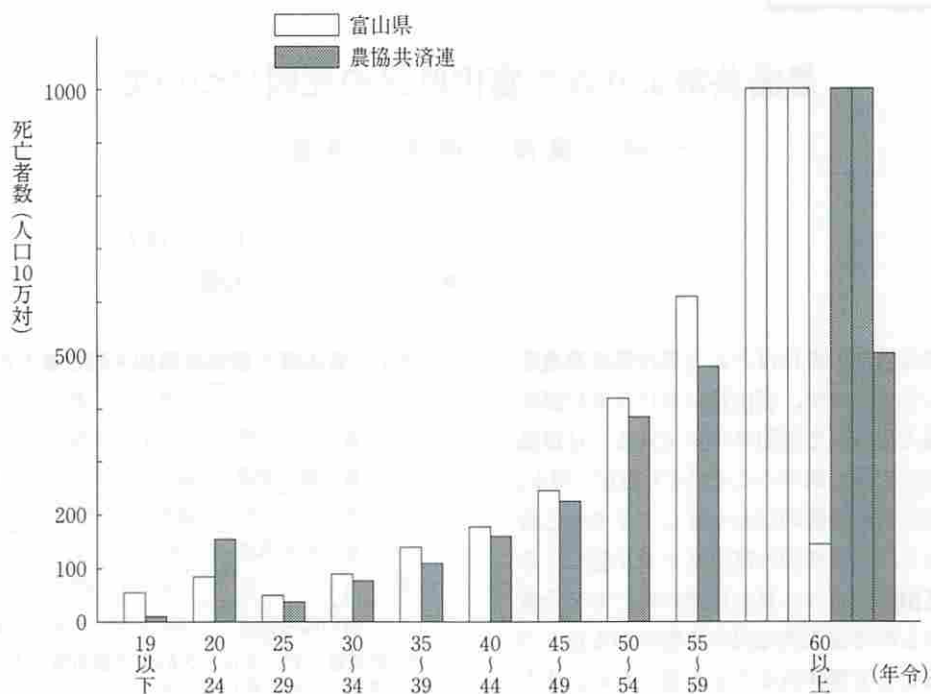


図3 全癌における富山県と農協共済連の比較（昭和61年度）

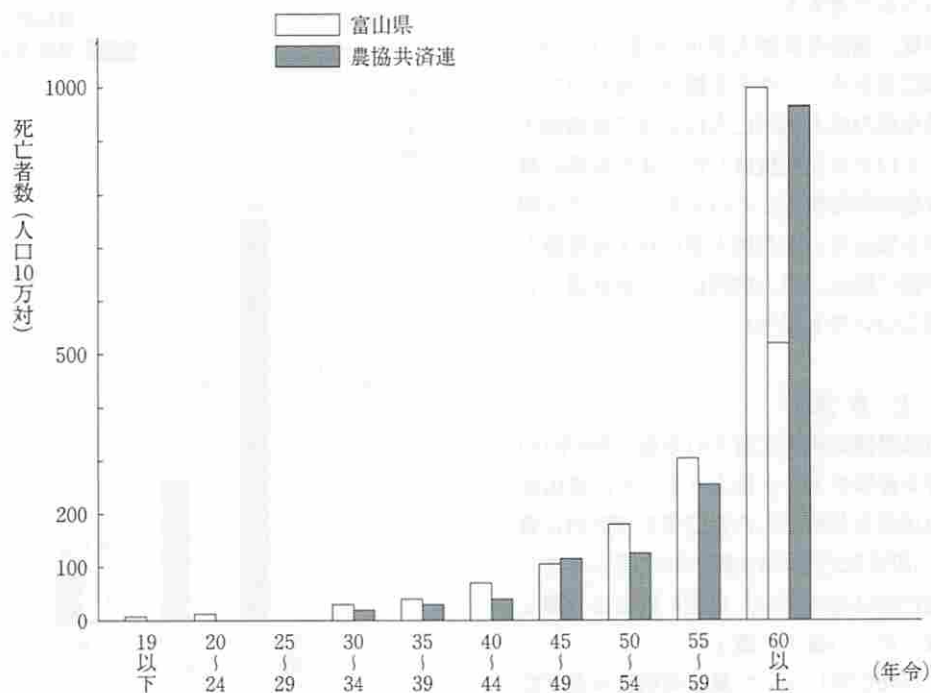


図4 胃癌における富山県と農協共済連の比較(昭和61年度)

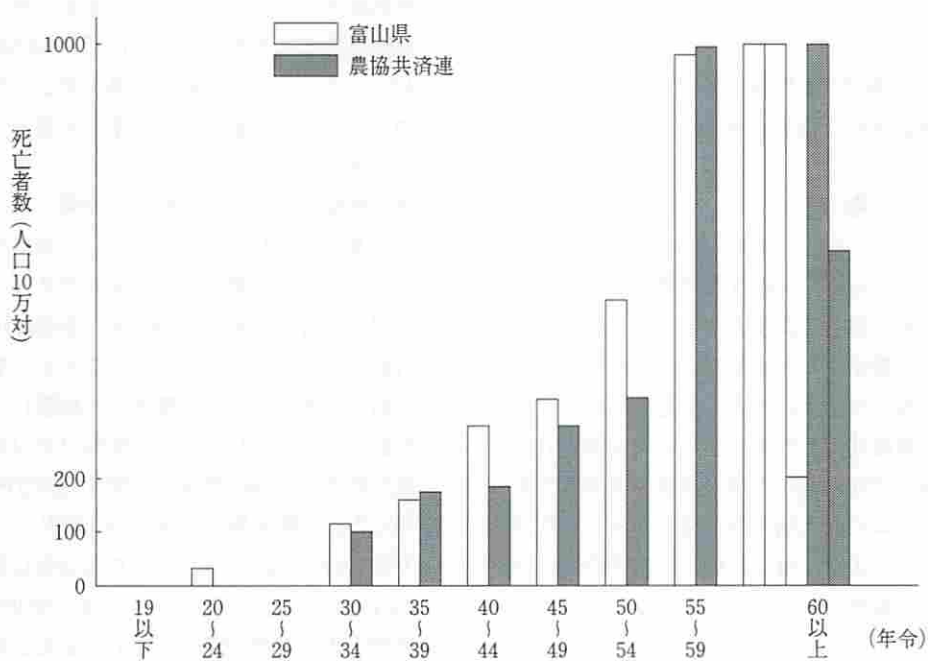


表2 農協共済における死亡と保障状況(年令別)

年令	全 死 亡		全 癌		胃 癌	
	人 数	保障総額	人 数	保障総額	人 数	保障総額
19才以下	2	950	0	0	0	
20	15	32,900	1	100	0	
25	7	15,600	0	0	0	
30	14	20,180	4	4,760	2	4,050
35	23	30,290	8	7,290	4	3,190
40	18	17,630	5	2,000	3	1,000
45	39	47,575	16	13,085	5	2,930
50	73	68,845	21	13,650	7	5,550
55	98	66,970	46	21,680	20	14,310
60	117	29,875	49	11,550	20	4,970
△ 65	126	17,120	49	5,405	16	2,160
70	123	13,045	48	3,940	15	1,380
75	59	3,015	12	745	4	195
80	7	585	2	160	2	160
○ 計	721	※ 364,580	261	※ 84,365 1人当り 323.2	98	※ 39,895 1人当り 407.1

○  $\frac{261}{721} \times 100 = 36.19\%$

○  $\frac{98}{721} = 13.59\%$

○  $\frac{98}{261} = 37.54\%$

△  $\frac{126}{721} \times 100 = 17.475\%$

△  $\frac{49}{261} = 18.77\%$

△  $\frac{20}{98} = 20.408\%$

※  $\frac{84365}{364580} \times 100 = 23.14\%$

※  $\frac{39895}{364580} = 10.94\%$

※  $\frac{39895}{84364} = 47.28\%$

率と富山県のものを図示し、全死亡、全癌、胃癌についてそれぞれ比較検討した（図2、3、4）。

61年(1986年)度農協共済における死亡とその保障状況について年齢別に表わした(表2)。

## 結果と考察

### (1) 富山県と農協共済加入死亡との比較

全死亡、全癌、胃癌は県の死亡率よりも低値であり、男子は女子より高く、胃癌においてはその差がもっとも少ない。それを表に表わすと表1のようになる。全死亡について富山県と農協共済とも差が著しいのは共済引き受け時点で富山県成人病の経年的発病者群より予後のよい成人病発病者群をとらえられているといえよう。但し、癌とくに胃癌について必ずしもそのようになっていないと思われる。

(2) 富山県の死亡(昭和61年度)でその年代別死亡率を全死亡、全癌、胃癌でそれぞれみると全死亡で40才以上で急激な死亡率上昇がある。この図2では60才以上は一括してまとめて表わした。癌は年代とともに死亡率が増加している。農協共済加入者年代別死亡率をみると、死亡率の年齢層のピークは全死亡で60才以上65才で17.5%、全癌で60~69才、胃癌55~60才であることがわかる。図2は全死亡に対して富山県と農協共済加入死亡者を年代別に比較したものである。図2は全死亡に対するもので45~49才の年代に関して共済加入が富山県の死亡を上まわっているのがわ

かる。胃癌死亡者について富山県と農協共済を比較すると55~59才に富山県をしのぐピークがあることがわかる(人口10万人に対し20.4人)。すなわち、全癌と胃癌と死亡に年齢層のずれがあり、富山県死亡率を上まわっている(表1)。

### (3) 農協共済における死亡と保障について

全死亡721人中癌死亡261人で36.2%であり、その内、胃癌について98人であり全死亡に対して胃癌の割合は13.6%、全癌に対して胃癌の割合は37.5%である。このような死亡に対して農協共済と保障割合の状態について検討した。年齢19~80才で昭和61年(1986年)度年間死亡の保障額総計36億4,580万円で、その内、全癌保障は8億4,365万円で1人当たり323万円となっている。これは全死亡保障の23.1%となる。胃癌については3億9,895万円で1人当たり407万円でこれは全死亡の10.9%となる。全癌のうち47.3%を占めており、癌の中で胃癌死亡者の保障の割合が過半数を占めていることになる。

## 結 語

- ① 死亡に関して農協共済と富山県とを比較すると、農協共済ではその死亡率はやや少なくなるが癌のある年齢層では必ずしもこのことは言えない。
- ② 農協共済死亡群でとくに胃癌の保障についてみると他の死亡保障より十分におこなわれているように思われる。